



南無阿彌陀佛
法然上人御真筆

いぎ詣りなん極楽へ

まい

しくらく

訓読・浄土宗の葬儀

撰取山 念佛寺

青字・・・偈題、経文題

緑字・・・導師が発声します

黒字・・・みなさんと共にお読みしましょう

香偈 こうげ

願ねがわくは我が身み 浄きよきこと香炉こうろの如ごとく

願ねがわくは我が心こころ 知恵ちえの火ひの如ごとく

念ねん念ねんに戒定かいじょうの香こうを焚たきまつりて

十方三世じっぼうさんぜの佛ほとけに 供養くようしたてまつる

三宝礼 さんぼうらい

一いっ心しんに敬うやつて

十方方法界じっぼうほうかいに常住じやうじゆうする佛ほとけを礼らいしたてまつる



一いっ心しんに敬うやつて

十方方法界じっぼうほうかいに常住じやうじゆうする法ほうを礼らいしたてまつる

一いっ心しんに敬うやつて

十方方法界じっぼうほうかいに常住じやうじゆうする僧そうを礼らいしたてまつる

三奉請 さんぶじよう

請しょうじ奉たてまつる弥陀世尊みだせそん 道場どうじょうに入いらせたまえ

請しょうじ奉たてまつる釈迦如来しゃかにょらい 道場どうじょうに入いらせたまえ

請しょうじ奉たてまつる十方如来じっぼうにょらい 道場どうじょうに入いらせたまえ

懺悔偈 さんげげ

▲わ むかし つく ところ
 我れ昔より造る所のもろもろの悪業は ▲
 みなむし とんじんち よ しんごい ところ
 皆無始の貪瞋痴に由る 身語意より生ずる所なり
 いっさいわ いまみな さんげ
 一切我れ今皆 懺悔したてまつる

同唱十念
どうじょうじゅうねん

なむあみだぶ なむあみだぶ なむあみだぶ
 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛
 なむあみだぶ なむあみだぶ なむあみだぶ
 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛
 なむあみだぶ なむあみだぶ なむあみだぶ
 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

表白
ひょうびやく

つし うや
 謹み敬つて西方願王阿弥陀如来の宝前に白す。 現前の弟子等、

りもつへんぞう こうやく たた しようみょうねんぶつ しょうぎよう しゆ もつ こうだい
 利物遍増の鴻益を讃え、 称名念佛の正業を修し、 以て広大
 じおん まんいつ むく たてまつ ほつ
 慈恩の万一に酬い 奉 らんと欲す。

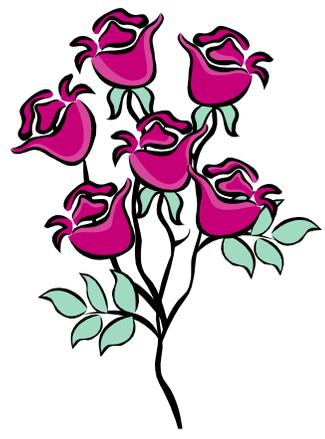
とき いま れい い めいふく すす ため ほうえ こうこん とも
 よつて時に今、○○靈位の冥福を薦めんが為に、 法会を興建し、 共
おうじょうじようど がんぎよう けいしゆ たてまつ
 に往生浄土の願行を啓修し 奉る。 伏して請い願わくは、
みだじそん ひみん た せつしゆごねん たま
 弥陀慈尊、 悲愍を垂れて 摂取護念し給え。

開経偈
かいきようげ

▲▲むじようじんじんみみよう ほう ▲
 無上甚深微妙の法は

ひやくせんまんこう あ あ なた
 百千万劫にも遭い遇うこと難し

わ いまけんもん じゆじ え
 我れ今見聞し受持することを得たり



願わくは如来の真実義を解したてまつらん

佛の説き給える阿弥陀経

《第一》かくの如きを我れ聞けり。一時、佛、舍衛国の祇樹給孤独園にましまして、大比丘衆、千二百五十人と俱なりき。みなこれ大阿羅漢にして、衆に知識せられたり。長老舍利弗、摩訶目犍連、摩訶迦葉、摩訶迦旃延、摩訶俱絺羅、離婆多、周利槃陀伽、難陀、阿難陀、羅睺羅、憍梵波提、賓頭盧、頗羅墮、迦留陀夷、摩訶劫賓那、薄拘羅、阿菟樓駄、かくのごとき等のもろもろ

の大弟子、ならびにもろもろの菩薩摩訶薩あり。文殊師利法王子、阿逸多菩薩、乾陀訶提菩薩、常精進菩薩および釈提桓因等の無量の諸天・大衆とともになりき。

《第二》その時、佛、長老舍利弗に告げたまわく。こ

れより西方十万億の佛土を過ぎて世界あり。名づけて極楽という。その土に佛まします。阿弥陀と号したてまつる。いま現にましまして説法したまへり。舍利弗よ。



かの土を何が故ぞ名づけて極楽となす。その国の衆生、
もろもろの苦あることなく、ただもろもろの樂のみを受
く。かるがゆえに極楽と名づく。

また舍利弗よ、極楽国土には、七重の

欄楯、七重の羅網ある七重の行樹あり。

みなこれ四宝をもて周帀し圍繞せり。この

ゆえにかの国を、名づけて極楽という。

また舍利弗よ。極楽国土には、七宝の池あ

り、八功德水、その中に充滿せり。池の底



には純ら金沙をもて、地に布けり。四辺に階道あり。

金・銀・瑠璃・玻璃をもて合成せり。上に樓閣あり。

また金・銀・瑠璃・玻璃・磤磤・赤珠・瑪瑙をもて、

しかもこれを嚴飾せり。池の中に蓮華あり。大きき車輪

のごとし。青色には青光あり、黄色には黄光あり、

赤色には赤光あり、白色には白光ありて微妙香潔な

り。舍利弗よ。極楽国土には、かくのごと

きの功德莊嚴を成就せり。

また舍利弗よ。かの佛の国土には、常に



てんがく おうごん じ ちゆうやろくじ まんだらけ
 天楽をなし、黄金を地とせり。昼夜六時に、曼陀羅華を
 ふ くに しゅじよう つね しようたん
 雨らす。その国の衆生、常に清旦をもつて、おのおの
 えこく みようけ もり たほうじゆうまんのく
 衣襪をもて、もろもろの妙華を盛りて、他方十萬億の
 ほとけ くよう じき ほんこく かえ いた
 佛を供養す。すなわち食時をもつて本国に還り到りて、
 ぼんじき きようぎよう しやりほつ いくらくこくど
 飯食し経行す。舍利弗よ。極楽国土
 には、かくのごときの功德莊嚴を
 じようじゆ くだくしようごん
 成就せり。
 しやりほつ くに つね
 またつぎに舍利弗よ。かの国には常に
 しゆじゆ きみよう ざつ しき とり
 種々の奇妙なる雑色の鳥あり、



びやっこく くじやく おうむ しやり かりようびんが ぐみよう とり
 白鶺鴒・孔雀・鸚鵡・舍利・迦陵頻伽・共命の鳥なり。
 このもろもろの鳥、昼夜六時に和雅の音をいだす。その
 こえ ごごん ごりき しちぼだいぶん ほっしょうどうぶん
 音、五根・五力・七菩提分・八聖道分かかくのごとき等
 ほう えんちよう ど しゅじよう こえ き お
 の法を演暢す。その土の衆生この音を聞き終わりて、
 ほとけ ねん ほう ねん そう ねん
 みなことごとく佛を念じ、法を念じ、僧を念ず。
 しやりほつ なんじ とり じつ さいほう しもしよう おも
 舍利弗よ。汝この鳥は、実にこれ罪報の所生なりと謂
 うことなかれ。ゆえはいかん。かの佛の国土には
 さんなくしゆ しやりほつ ほとけ こくど
 三悪趣なければなり。舍利弗よ。その佛の国土にはな
 さんなくどう な いわん じつ
 お三悪道の名もなし。いかに況や実あらんや。このも

ろもろの鳥は、みなこれ阿弥陀佛の、法音を宣流せしめ
とり あみだぶつ ほうおん せんる
 んと欲したもう変化の所作なり。舍利弗よ。かの佛の
ほつ へんげ しよさ しやりほつ ほとけ
こくど みふう ふ ほうじうじゆ
 国土には、微風吹きて、もろもろの宝行樹および、宝
らもう うご みみよう こえ い ひやくせんじゆ
 羅網を動かして微妙の音を出だせり。たとえば百千種
がく どうじ な こえ き もの
 の楽を、同時にともに作すがごとし。この音を聞く者は、
じねん ねんぶつ ねんぼう ねんそう こころ しやう
 みな自然に念佛・念法・念僧の心を生
しやりほつ ほとけ こくど
 ず。舍利弗よ。その佛の国土には、かく
くどくしやうこん じじやうじゆ
 のごときの功德莊嚴を成就せり。
しやりほつ なんじ こころ
 舍利弗よ。汝が意においていかん。かの



佛を何がゆえぞ、阿弥陀と号したてまつる。舍利弗よ。
ほとけ なに あみだ ごう しやりほつ
ほとけ ごうみようむりよう じつぼう くに して しやうげ
 かの佛の光明無量にして、十方の国を照らすに障礙す
ところ ごう あみだ
 る所なし。このゆえに号して阿弥陀となす。また
しやりほつ ほとけ じゆみよう にんみん むりようむへん
 舍利弗よ。かの佛の寿命、およびその人民、無量無辺
あそうぎごう あみだ な
 阿僧祇劫なり。ゆえに阿弥陀と名づけたてまつる。
しやりほつ あみだぶつ じじやうぶつ いま
 舍利弗よ。阿弥陀佛、成佛よりこのかた、今において
じつごう しやりほつ ほとけ むりようむへん しやうもん
 十劫なり。また舍利弗よ。かの佛に無量無辺の聲聞
でし あらかん さんじゆ し
 弟子あり。みな阿羅漢なり。これ算数のよく知るところ
ほ さつしゆ
 にあらず。もろもろの菩薩衆もまたまたかくのごとし。

舍利弗よ。かの佛の国土にはかくのごときの功德莊嚴
を成就せり。



また舍利弗よ。極楽国土には、衆生、
生ずるはみな阿鞞跋致なり。その中、
多くは一生補處あり。その数はなほ
だ多し。これ算数のよく知る所にあ
らず。ただ無量無辺、阿僧祇劫をもつて説くべし。
舍利弗よ。衆生にして聞く者あらば、まさに發願して
かの国に生ぜん願ずべし。ゆえはいかん。かくのご

ときもろもろの上善人とともに、一處に会することを
得ればなり。舍利弗よ。少善根福德の因縁をもつては、
かの国に生ずることを得べからず。
舍利弗よ。もし善男子・善女人ありて、阿弥陀佛を説く
を聞きて、名号を執持すること、もしくは一日、もしくは
二日、もしくは三日、もしくは四日、もしくは五日、もしくは六
日、もしくは七日、一心不乱なれば、その人、命終の時
に臨んで、阿弥陀佛、もろもろの聖衆とともに、現に
その前にましまして、この人終わる時、心顛倒せず。



すなわち阿弥陀佛の極樂

国土に往生することを得。

舍利弗よ。われこの利を見

るがゆえにこの言を説く。

もし衆生ありて、この説を聞かば、まさに発願して、

かの国土に生ずべし。

回向文

願わくは、上来修する所の善品を以て、皆、悉く回向す。(霊名)

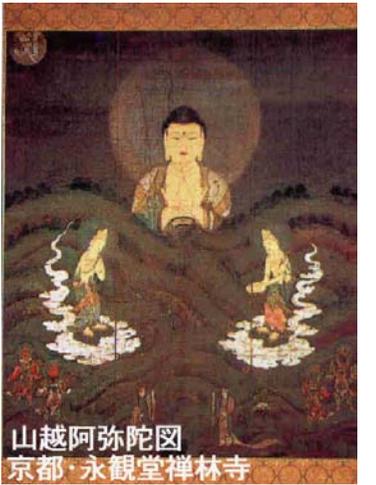
神超淨域 業謝塵勞 見佛聞法 速入無生

降魔偈

門門不同にして八萬四なるは、無明と果と業因とを滅せんがためなり。利劍はすなわちこれ弥陀の号なり。一声称念すれば 罪みな除かれん。

同唱十念

南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛



発願文

願わくは弟子等、命終の時に臨んで、心顛倒せず、心錯乱せず、心失念せず。身心にもろもろの苦痛なく、身心快樂にして、禅定に入るがごとく、聖衆現前したまい、佛の本願に乗じて、阿弥陀佛国に上品往生せしめたまえ。かの国にいたりおわって、六神通をえて、十方界に入つて苦の衆生を救摂せん。虚空法界尽きんや、我が願もまたかくのごとくならん。

くつう

しんじんけらく

ぜんじょう

い

しょうじゆげんぜん

ねが

ほとけ

ほんがん

じょう

あみだぶつこく

じょうほんおうじょう

でしとう

くに

あみだぶつこく

ろくじんずう

じつぼうかい

かえ

く

しゆじょう

くしじょう

こくうほうかい

わ

がん

発願しおわんぬ。至心に阿弥陀佛に帰命したてまつる。

ほつがん

ししん

あみだぶつ

きみょう

摂益文

●によらい

こうみょう

●

あまね

じつぼうせかい

て

如来の光明は

徧く十方世界を照らして、

ねんぶつ

しゆじょう

せつしゆ

す

念佛の衆生を 摄取して捨てたまわず。

ねんぶついちえ

念佛一会

●なむあみだぶ

●なむあみだぶ

●なむあみだぶ

●なむあみだぶ

●なむあみだぶ

●なむあみだぶ

●なむあみだぶ

●なむあみだぶ

●南無阿弥陀佛

別回向

べつえこう

願ねがわくは上じょう来らい修しゆする所ところの 大だい乘じよう妙みよう典てん、称しょう揚よう称しょう名みよう
願ねがはくは上じょう来らい修しゆする所ところの 大だい乘じよう妙みよう典てん、称しょう揚よう称しょう名みよう
の功く徳とくを以もつて回え向こうす。(靈えい 名な)
神じん超ちよう淨じよう域いき 業ごう謝じや塵じん勞ろう 見けん佛ぶつ聞もん法ぼう 速そく入にゆう無む生しよう
神じん超ちよう淨じよう域いき 業ごう謝じや塵じん勞ろう 見けん佛ぶつ聞もん法ぼう 速そく入にゆう無む生しよう

総回向偈

願ねがわくはこの功く徳とくを以もつて 平びよう等どう一いつ切さいに施ほごし
願ねがわくはこの功く徳とくを以もつて 平びよう等どう一いつ切さいに施ほごし
同おなじく菩ぼ提だい心しんを發おこして 安あん樂らく国こくに往おう生じようせん
同おなじく菩ぼ提だい心しんを發おこして 安あん樂らく国こくに往おう生じようせん

同唱十念

南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ
南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ
南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ
南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ
南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ
南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ

南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ
南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ 南な無む阿あ弥み陀だ佛ぶつ

総願偈

衆しゆ生じようは無む辺へんなれども誓ちかつて度どせんことを願ねがう
衆しゆ生じようは無む辺へんなれども誓ちかつて度どせんことを願ねがう
煩ぼん悩のうは無む辺へんなれども誓ちかつて断だんせんことを願ねがう
煩ぼん悩のうは無む辺へんなれども誓ちかつて断だんせんことを願ねがう
法ほう門もんは無む尽じんなれども誓ちかつて知しらんことを願ねがう
法ほう門もんは無む尽じんなれども誓ちかつて知しらんことを願ねがう
無む上じようの菩ぼ提だいなれども誓ちかつて証しょうせんことを願ねがう
無む上じようの菩ぼ提だいなれども誓ちかつて証しょうせんことを願ねがう
自じ他た法ほう界かいは利り益やくを同おなじ
自じ他た法ほう界かいは利り益やくを同おなじ
共ともに極ごく樂らくに生じようじて佛ぶつ道だうを成じようぜん
共ともに極ごく樂らくに生じようじて佛ぶつ道だうを成じようぜん

三唱礼

平成十一（一九九九）年十月三日 初版第二刷

浄土宗 撰取山 念佛寺

第二十二世 琇譽寛一